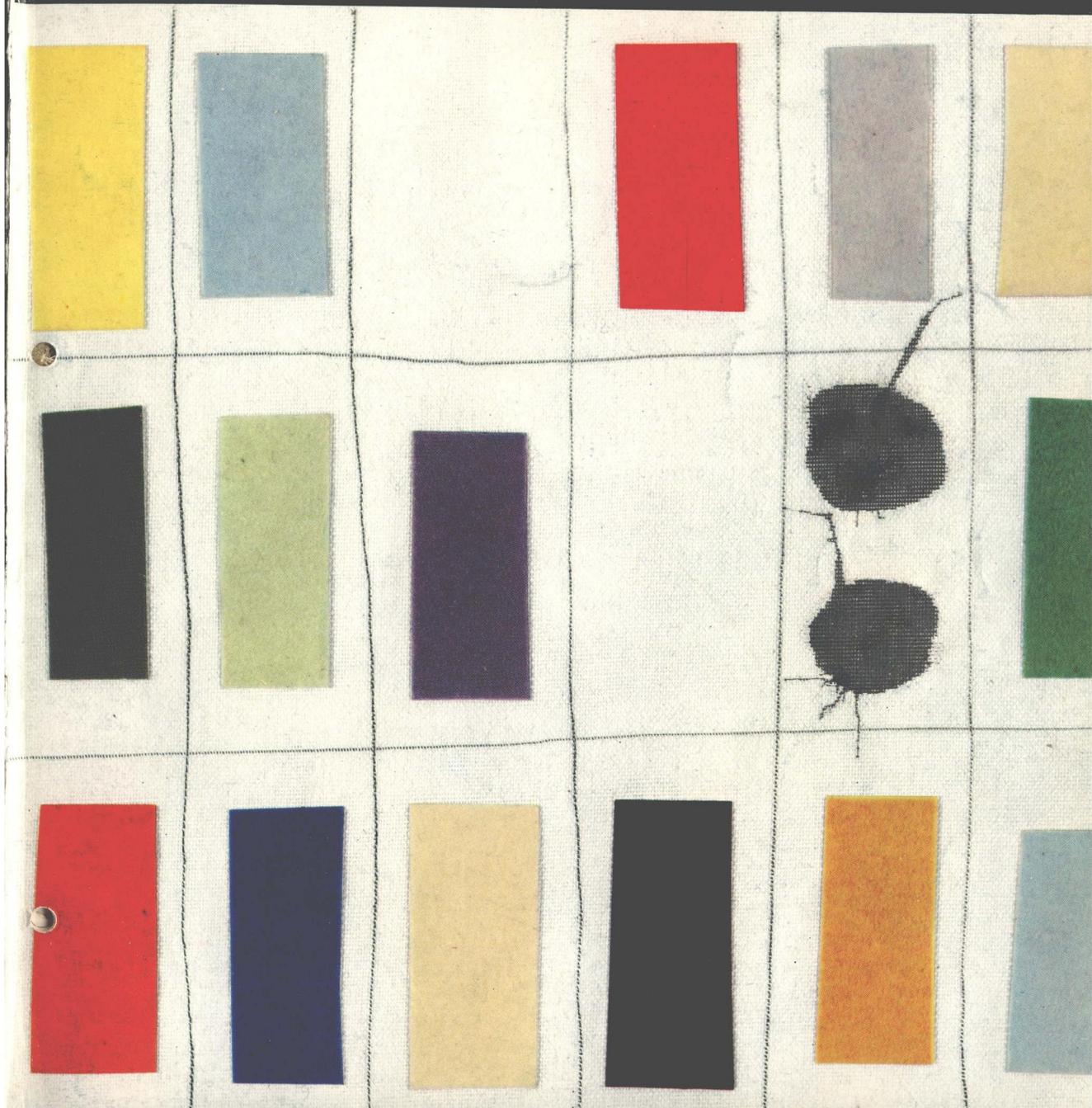


# San-ai

三愛会会誌 NO.43.'63/2

三愛ドリームセンター誕生



## 三愛ドリームセンター誕生



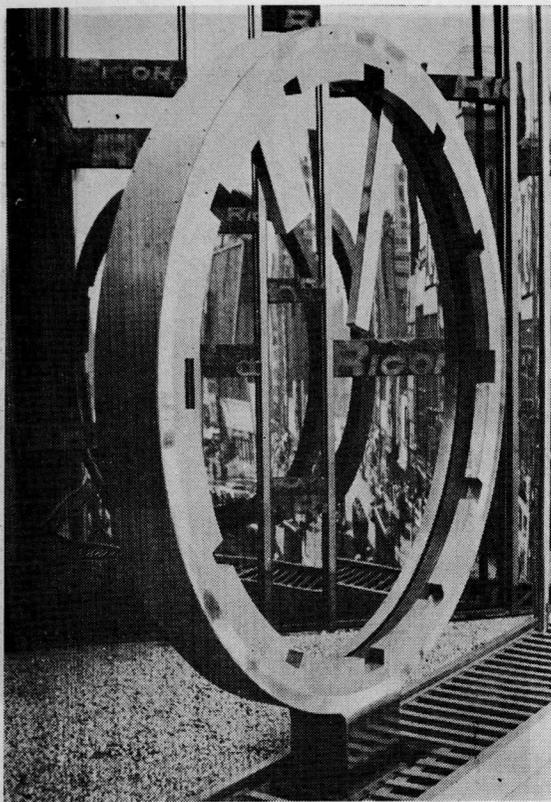
アイデアを生むには10の力でよい。それを企画にまで高めるには20の力がある。しかし実現するためには100の力がなければならぬ。

—市村 清—

オリジナル アクセサリー コーナー

# チビガドッコ

三愛ドリームセンター 2F



スカイクロック開館式のチャイムはこの時計が零時を指す1分前からなりはじめた

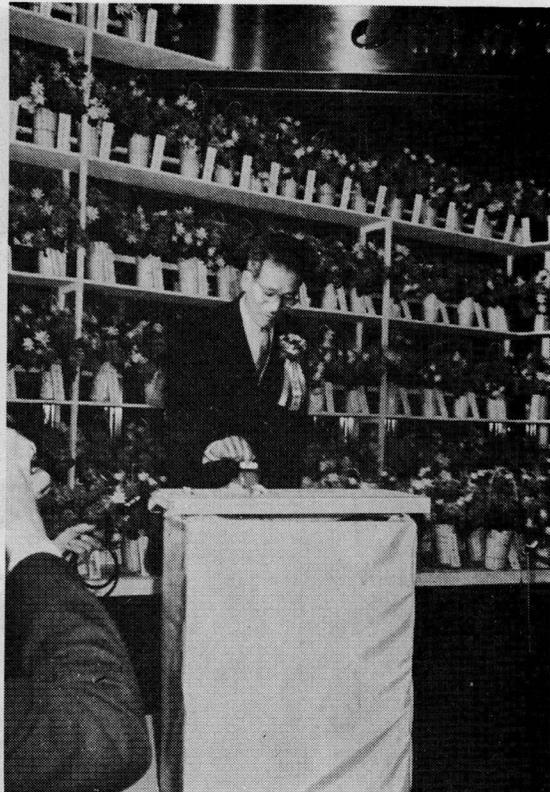
KWAAN-kan-kan-KWAAN-kwaan-kan……

スカイクロックから流れだしたチャイムの美しい音色が午前零時の凍てつく寒さをやわらげる。

いつもの銀座ならこんな深更には走る車の騒音だけが眠りをやぶっているだろう。世界一といわれるネオン群もほとんど消えはて、扉をとぎした商店の軒並みは黒い。隣りに立つ人の顔もさだかではないほどの薄闇である。

ただきょうばかりはこの銀座4丁目交叉点がいままで一度もなかった光景を呈している。この薄闇の交叉点に2,000人に及ぶ群集が車道にあふればかり、交通整理の警官が(80名出動)提灯をかかげて整理にあたっている。4つの角の舗道に立ちならんだ人々の群が声もなくいままさに点灯されようとする三愛ドリームセンターを見上げているのである。

チャイムのメロディーがやむと、マイクを通して司会者(河合佐治氏)の音が遠くまできこえる。



点灯スイッチを入れる市村社長

“ただいまより三愛ドリームセンターの開館式をとり行います”。

君が代の前奏がはじまり、あたりの緊張が高まる。大通り四方にひびき唱和される厳肅な調べがおわる。

“世界中に未だかつて類例をみない光の殿堂三愛ドリームセンターの点灯式をとり行います”。

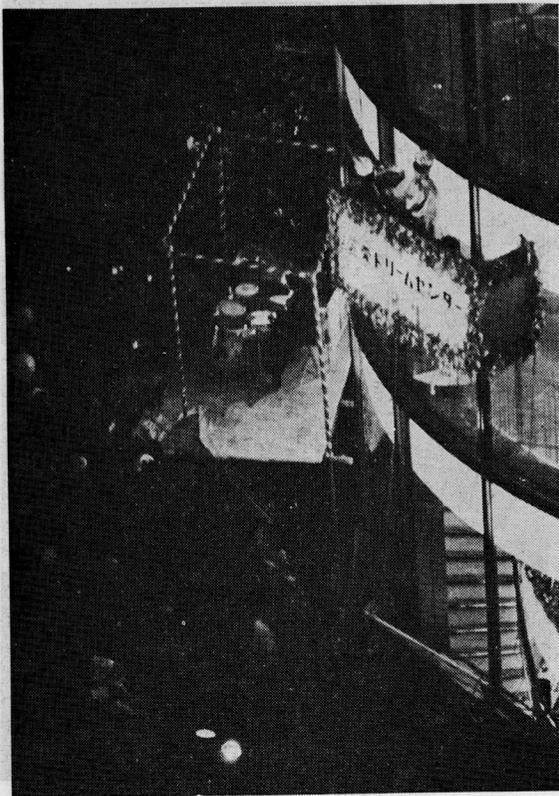
報道陣の写真を撮るとるフラッシュがキラめくなかから司会者の声が力強くきこえる。

ドリームセンター東入口前の小庭に小机がおかれ、その上に特設されたスイッチがのっている。

“市村社長の点灯と同時にフランキー堺さんの歓喜と慶祝のドラムならびにゲイスターズ楽団の演奏がごぞいます”。

では、市村社長の点灯をお願いいたします”。

真摯な面もちで市村社長がスイッチを入れられる。パッとドリームセンター1階内部と東入口前のステージが明るくなり、同時に三越屋上からの強い光芒が建物の外



ゴンドラが2階にとどいて2階に点灯された

面をてらす。ステージの幕が切って落され、沢山ならんだドラムを前にフランキー堺氏の熱演がはじまる。

建物の正面に屋上から吊り下げられたゴンドラが浮ぶように昇りはじめる。

ゴンドラにのった光の女王の手にする灯火が、ゴンドラが2階にたつと、ツトさしあげられる。それを合図に2階にパッと明りがつく、3階まで昇ると同様に3階につく。

普通店舗の明るさは200ルクスくらいである。その10倍2,000ルクスのまぶしい大きな光の環が各階の天井から街頭まで明るくする。この大ドーナツ型の光の環が重なっていく。なにか胸にせまるものがある。

ゴンドラが9階まで昇り、最後にネオンが輝きはじめ、全館が金色に照りはえる。

一せいに拍手の波がおこり、一きわ高くファンファーレがひびいて点灯式は最高潮である。

“日本一のこの場所に、世界注視の中に建てられまし



点灯式を終って市村社長、フランキー堺氏と喜びの握手

たドリムセンターに晴の点灯ができました。

観光日本の新名所がここに目出度く誕生したことを心から喜びとする次第であります。

皆様のご協力に対して謹んで深甚なる感謝の意を表します”。

この瞬間には恐らく関係者の誰にも心の底からわきでるよるこびの涙を禁じえなかったであろう。ただ見物にきた人々でさえ、ホッと息をついたほどの感銘を覚えたという。

“これをもちまして感激の点灯式をとどこおりなく終りました”。

司会者の声も心なしかふるえている。

つづいて鉄入れ式である。

司会者の声はつづく。

“今晩は深夜にもかかわらず、

三笠宮殿下、同妃殿下、ならびに若宮様の方々もお揃いでご臨席賜りましたことは誠に光栄でありまして、



三笠宮甯子内親王殿下の鉄入れ式

厚く御礼申し上げます。

では、三笠宮甯子内親王殿下の鉄を賜わりまして、鉄入れ式をとり行いたいと存じます”。

お美しい内親王殿下が市村社長夫人から静かに鉄をお受けとりになり、いま広く開いた扉の前にはられている金銀のテーブに鉄をお入れになる。

三愛ドリームセンターはここに目出たく開館されたのである。

チャイムがなりはじめてからここまでわずか5、6分間であったが、これほど時間の充実を感じたことはない。肌をさす寒さもわすれ街頭に立つことも覚えず、すさまじい迫力で感嘆の渦の中に観る者を引きこんでいくのであった。

厳冬の深夜もさることながら、この日本一の街頭を会場にして、1つの建築の開館披露を挙行するという計画そのものがすでに大へんなことである。

それが各界の名士はじめ全報道陣を集めて何一つ故障

なく、予期以上の成功をみたことは、なにかデーモンシユな力が働いていると感ぜざるをえなかった。

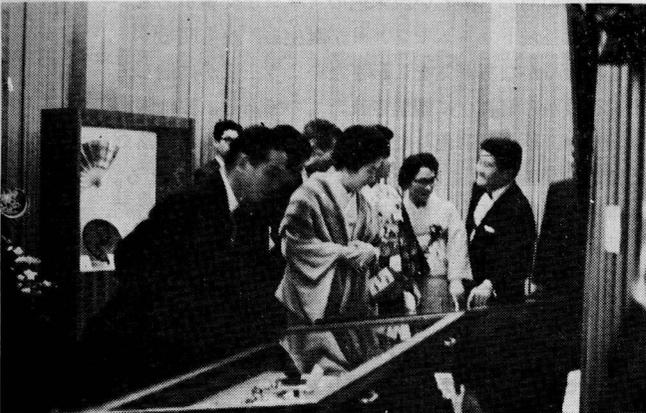
### スカイクロック

スカイクロックはリコー時計で製作した世界ではじめての時計です。3階と4階の間の表側サッシ上に設置されています。文字盤がなく、丸いワクだけです。ちよつと何がおいてあるかわかりません。不審気に見ていると、そのワクから出ている、細長い指針が動き、時計だとわかります。細長い方が分針、太くて短い方が時計でワクが回るので。3頁の写真では11時2分を指しています。これは13日開店の直後に3階から写した写真です。特殊な機械部分は地下室にあり、非常に正確です。この時計から店内外にむかつて1時間毎にいずみたく氏の作曲したチャイムのメロディが美しい音色で流れます。

(特許申請中)



1. 三笠宮様ご一家、三愛ドリームセンターへ初の第一歩をしるさる
2. 地下1階、セーター、アクセサリー売場への表階段にて
3. 地下1階センター売場から
4. 地下1階ハンドバッグ売場へ
5. 地下2階肌着売場にて



上 2階 三愛オリジナルセクション  
下 3階 催物会場 „私のコレクション”

上 1階化粧品売場 円型大ケースの前にて  
下 ご休憩中の三笠宮様ご一家

印象的な開館式が大成功のうちに済んで、ドリームセンターのなかを観光していただくときとなった。

ドット入るとかえって何も見えなくなるし事故が起るおそれもある。ご招待の方々は千数百名、10名ほどずつ順次入場していただく。

初のご入館、第一歩をしるされたのは三笠宮殿下のご一家であった。市村社長夫妻のご先導で、ご案内順路通りご一巡になった。

まず1階から直ちに脇階段を地下1階に降りる。地下1階はセーター、ハンドバック、手袋、アクセサリーなどの色とりどりの美しいディスプレイに夢のお城に入ったような錯覚をおぼえる。

地下2階は三愛が最も高い評価をえているアンダーウ

エア、スリッパ、肌着、ブラジャー、ストッキングなどの売場である。

ここからエレベーターで9階にあがる。9階は展望室スカイロビーである。硝子面にそって、金属製のスタレ式カーテンがキラキラと美しい。脇階段を8階に降りると喫茶室スカイリングのある室である。

4階から9階までは主に三菱電機のショールームとして使われている。

8階からエレベーターで3階に戻る。

3階は催物のための三愛フロアである。開館記念には名流婦人方がとくにご披露して下さった“私のコレクション”という催があった。三笠宮家からも由緒ある人形をご出品くださっていた。



夢の国へおりていくアリスのような気分になりながらジュウタンをしきつめた階段を2階へと降りて行く。

2階は三愛のオリジナル製品ばかりの売場である。婦人服、ブラウス、スカート、帽子から三愛の企画室で手作りした楽しいアクセサリーのコーナー“チビカドッコ”がある。

再び1階へかえる、ここは化粧品と化粧用品ばかりの売場で壁面は“恋こりん”と連続した凸面鏡がブロンズワクの間に張られており、漆黒の基調で化粧品を浮き立たせている。

言葉通り、ドリームランドをさまよったような気持で、北入口から戸外へ出る。一瞬びっくりするような寒さである。

その目の前に 美しい淡朱色のモダンな交番がある。

これは三愛ドリームセンターが誕生し、夜も明るく、昼もはなやかな雰囲気をこわさないよう三愛が建造して市村社長から警視庁に贈呈されたものである。表は楕曲面ガラス、屋根は彩色したステンレス製のじつに洒落た円筒形の交番で、ここに立つ警官までスマートに見える。

電車道を渡って向い側が披露宴場になっている。

披露宴も開館式に劣らず、楽しいアイデアでご招待の方々にお喜びいただけた。

人数が多いので、一つの会場では足りない。第1会場はライオンビヤホール、第2会場はコックドール、それぞれみごとな腕前の料理が山盛りされているカクテルバ

1. ドリームセンター前舗道から見た披露宴模擬店通り
2. 披露宴場のライオンビヤホール前からドリームセンターを見るフランキー堺氏と市村社長
3. 第1会場ライオンビヤホール内の一部
4. 昔の露店街を思い出させる披露宴模擬街
5. パチンコで楽しむ招待客

ーティ式の饗宴である。

しかし人気を呼んだのは模擬店街である。戦前から戦後にかけて銀座8丁を賑わした屋台店の復活風景。第1会場から第2会場にかけての舗道に有名店が出張して露店をならべている。おでん、カン酒もあれば、しるこ屋もある。石焼いもから、綿菓子屋、甘栗屋、食物ばかりでなく、パチンコも露店の向い側にならんでチンジャラジャラと楽しそうな人々で繁昌である。

舗道には石油ストーブをならべて燃しているが、温かい酒と食べもので身体は温たまっていくし、舗道一帯の人波でさすがの寒風も身にしみなくなってくる。

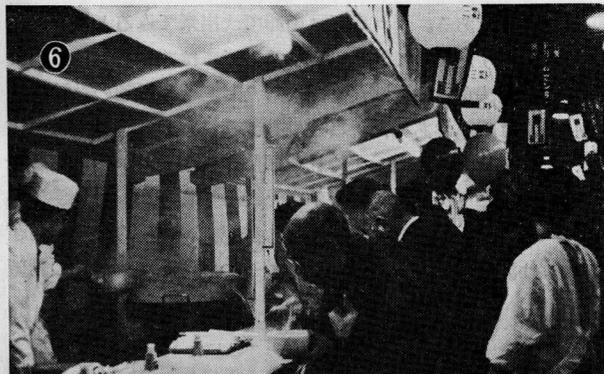
宴たけなわになって、両会場やドリームセンター内外に一緒にきこえるスピーカーから池田首相からのメッセージが読み上げられ市村社長のご挨拶がある。

開館式がすんで、館内を一巡したらすぐ帰っていかれる方々が多いだろうと思われていたが、午前2時すぎになっても、会場、露店通りとも、かきわけなければ歩けないほどの雑踏であった。

その情景はつたない文章より写真によってご推察いただきたい。

閉会は午前2時30分、午後11時30分から3時間に及ぶ三愛ドリームセンター誕生披露式の全スケジュールはつつがなく大成功のうちにその幕を閉じたのである。

6. 深夜の屋台ソバの味はまた格別
7. 第2会場前 乗車口へ向う途中にて
8. 第2会場コックドールの一部
9. 銀座6丁目から披露宴の露店街を眺む





昭和 38 年 1 月 13 日午前零時を期して催された三愛ドリームセンターの開館点灯式において全館点灯された歴史的瞬間  
リコー時計が零時5分を指している

撮影 吉田利雄 リンホフテヒニカ 4×5 アングロン90% F6.8 絞り3.2 2分 エクタクローム